

『教え子の記録』 ～ 忘れ得ぬ教育の原点 ～

2024年9月20日は、筆者は【第83回日本癌学会学術総会(学術会長:九州大学医学部第一内科教授 赤司浩一先生;福岡国際会議場 & マリンメッセ福岡B館)】に参加した。【サバイバー・科学者プログラム(JCA-SSPプログラム)】では、渡會明香氏(千葉県の春日部 & 野田がん哲学外来メディカルカフェ)が、演題『がん哲学外来と私』を発表され大いに感動した(画像)。

2025年の日本癌学会学術総会会長は、大島正伸先生(金沢大学教授)である。今回、2003年 お茶の水の東京ガーデンパレスで、筆者の順天堂大学教授就任を兼ねての【『われ21世紀の新渡戸とならん』(イーグレープ)出版記念シンポジウム】に、大島正伸先生の今は亡きお父様(大島智夫先生)が出席されたことが鮮明に蘇ってきた。神奈川県海老名市の大島智夫先生のご自宅での会食に wife と招待されたことが、忘れ得ぬ思い出である。

海老名総合病院での【がん哲学外来開設記念講演 ～ 第1回大島正健記念 がん哲学外来シンポジウム～】(2015年)に、大島正健(札幌農学校1期生)のお孫さんの大島智夫先生も出席され、ご挨拶もして頂き、会場は、大いに盛り上がった。『クラーク先生とその弟子たち』(大島正健著、大島正満、大島智夫 補訂;教文館1993年)を拝読し、教育者としてのウィリアム・クラーク(1826-1886)の【『Be gentleman』&『Boys, be ambitious!』】の由来を学んだものである。

札幌農学校(現在の北海道大学)を率いたウィリアム・クラークが、『その地を去るに臨んで、馬上から学生に向かって叫んだ言葉』と、大島智夫先生から伺ったものである。クラークの名言『ボーイズ・ビー・アンビシャス(boys be ambitious)』を『少年よ大志を抱け』と訳したのが教育者・大島正健である。『Boys be ambitious』はクラークがアメリカに帰国する際、別れを惜しむ教え子たちに馬上から発した『別れの言葉』で、1人の教え子により記録された。筆者の幼い時、強い印象を与えた言葉である。クラーク精神が内村鑑三(1861-1930)、新渡戸稲造(1862-1933)、南原繁(1889-1974)、矢内原忠雄(1893-1961)を生んだ。『言葉の処方箋 ～ 忘れ得ぬ教育の原点 ～』(画像)である。



2020年4月6日 樋野興夫先生より

「新渡戸稲造の言葉の処方箋」10か条

「心がけにより、逆境も、順境になる」(新渡戸稲造)

- 1) 発心を忘れずに継続 (『修養』)
- 2) やり通す教育の必要性 (『読書と人生』)
- 3) 小さな職務に忠実であれ (『人生読本』)
- 4) 親切とは行動すること (『世渡りの道』)
- 5) 相手に得意なことを語らせる (『新渡戸博士追悼集』)
- 6) 有事のときの素人の良さ (『内観外望』)
- 7) いろいろな意見に耳を傾けたい (『新渡戸博士追悼集』)
- 8) 試練は力を賦与する (『偉人群像』)
- 9) 読書は人間をつくるもの (『読書と人生』)
- 10) 永遠の生命をもつ本を読め (『人生読本』)